

# 1 おもてまち 表町の小さな試み～住民と大学、行政による協働のまちづくり～



雁木の歩行空間 冬期間の積雪時でも歩行者空間が確保



住民宅にて、学生たちが考えたデザインを家主と調整



学生たちがデザインした案を模型を用いて発表され、住民・専門家と議論を交わします



上棟作業後 施主、住民、学生、大工など全員が最高の笑顔



地元の大工が行う雁木建設に、住民や学生も作業に協力



手づくりによる雁木づくりは今後も続けられます

昔ながらの面影を残す栃尾表町は、300 mほどの通りの両側に妻入り町家と雁木が連なる在郷町です。

雁木とは、通りに面する私有地を提供し合い、そこに屋根を掛けたものであり、地域住民のコミュニティの場、雪深い冬場の貴重な歩行空間として親しまれています。しかし近年の住宅の建て替え、駐車場確保などにより、雁木は減少しつつありました。

そこで当地区では平成9年より住民と新潟大学工学部、栃尾市（現・長岡市）との協働で雁木を、単に保存、復元するだけでなく、新たな雁木の計画・検討・建設を行っています。

この活動は「手づくりによる持続

的なまちづくり」をキーワードに、無理をしない範囲で、皆が楽しみながら主体的に関わるというルールの中で活動を12年間続けています。平成9年に地域づくり計画案の策定、10、11年にはご神木を活用した屋号デザイン看板の製作・設置、12年からは毎年1棟ずつ雁木の建設に取り組んでいます。人が集まるという方言である「よったかり」をキーワードとし、平成19年度までに24枚の屋号看板、9棟の雁木が建設され、「地域のたからもの」として大切に利用し、次世代に引き継がれていきます。

新潟大学以外にも、長岡造形大学や新潟工業高校の学生が参加し

たり、小学校の総合学習と連携するなど、活動の輪は徐々に広がりを見せています。

住民自らの手で生活環境を少しずつ、確実に変えていくことが、参加者に大きな達成感を与えると共に、持続した活動への原動力となっています。

## ■所在地

新潟県長岡市栃尾表町

## ■活動内容

- 雁木製作デザインコンペティション 9月上旬
- 雁木あいぼ 5月上旬

## ■活動主体名

栃尾表町区、新潟大学工学部、長岡市栃尾支所建設課

## ■応募者又は推薦者・担当部局名・連絡先等

長岡市栃尾支所建設課 電話番号 0258-52-2151 (代表)

